

R4-R8の有田地域等の減災に係る 取組方針(第2期)の取組事例

取組内容

- (1) 洪水に対する意識の啓発及び普及 ①情報伝達、避難計画等に関する事項
- 想定される浸水リスクの周知について
 - 洪水予報・水位周知河川以外の想定最大規模降雨による洪水浸水想定区域図の公表

● 中小河川の洪水浸水想定区域図の作成・公表

取組概要

○これまで把握されていなかった、洪水予報河川及び水位周知河川区間を除く県管理河川における水害リスク情報を明らかにすることで、住民の適切な避難行動を確保する。(令和3年水防法改正)

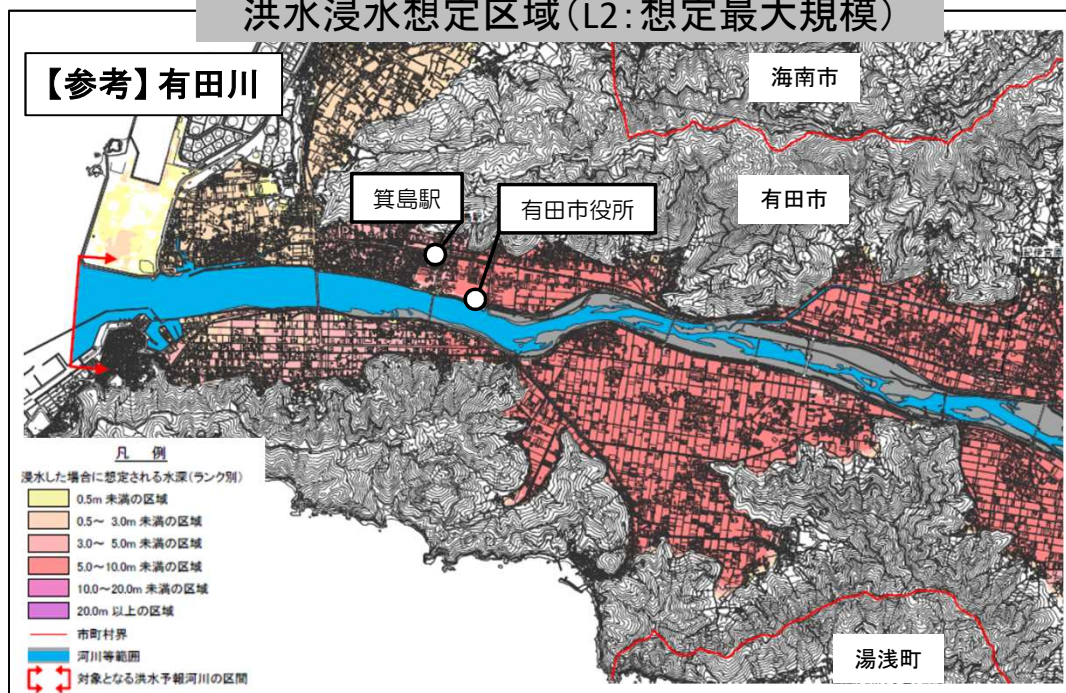
<和歌山県管理の指定河川>

	洪水予報河川	水位周知河川	その他河川	計
一級河川	1	3	129	133
二級河川	3	14	300	317
計	4	17	429	450

現行の指定対象河川数

作成中

洪水浸水想定区域(L2: 想定最大規模)



<洪水浸水想定区域図公表済み河川>



(3) 迅速・的確な行動の備え ①情報伝達、避難計画等に関する事項

■住民等への情報伝達体制や方法について

・ウェブサイト、テレビで河川水位、カメラ映像、気象情報を提供

●県ホームページで、河川の水位、カメラ映像を提供

取組内容

ホームページの改修

【改修内容】

①河川監視カメラ及び水位計の増設

河川監視カメラ 97箇所 (R4:11箇所増設予定)

水位計 91箇所 (R4:14箇所増設予定)

②他県管理雨量計の表示

紀の川の上流域

(奈良県:20箇所)

熊野川及び北山川の上流域

(奈良県:12箇所、三重県:9箇所)

③河川流域図の表示機能の追加

④国土交通省 河川監視カメラ映像の表示

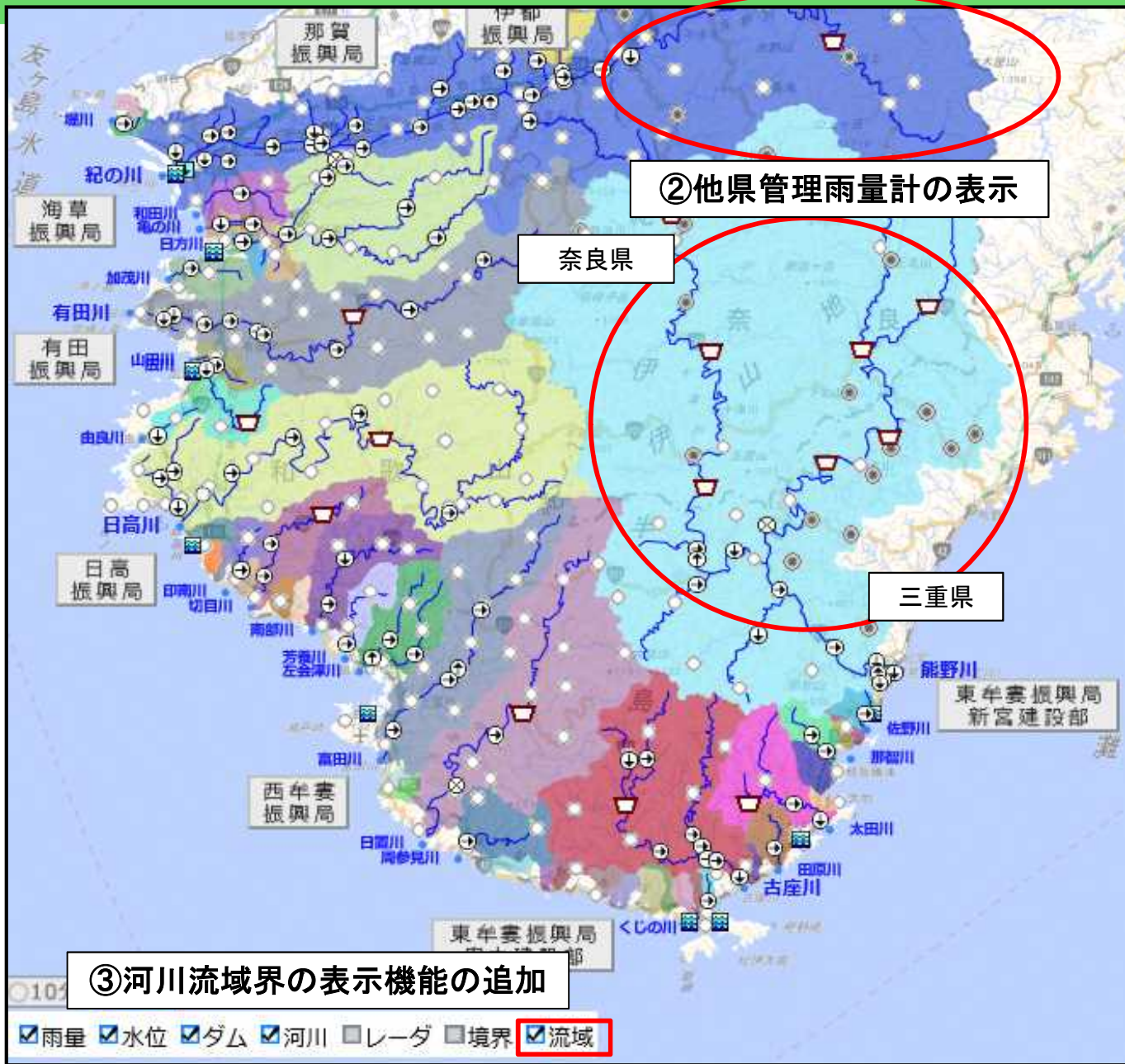
(R3年4月～)

⑤和歌山県 河川監視カメラ映像の表示

(YouTube配信) (R4年10月～)

⑤和歌山県 河川監視カメラ映像の表示

(YouTube配信)



金屋水位観測所 (有田川)

和歌山県 有田振興局管内 河川映像

有田川 金屋水位観測所の河川カメラ映像の点検及び故障により、配信が出来...



(1) 洪水に対する意識の啓発及び普及 ① 情報伝達、避難計画等に関する事項

■ 避難場所・避難経路について

・ 分かり易く、利活用されるハザードマップの作成、周知に向けた検討

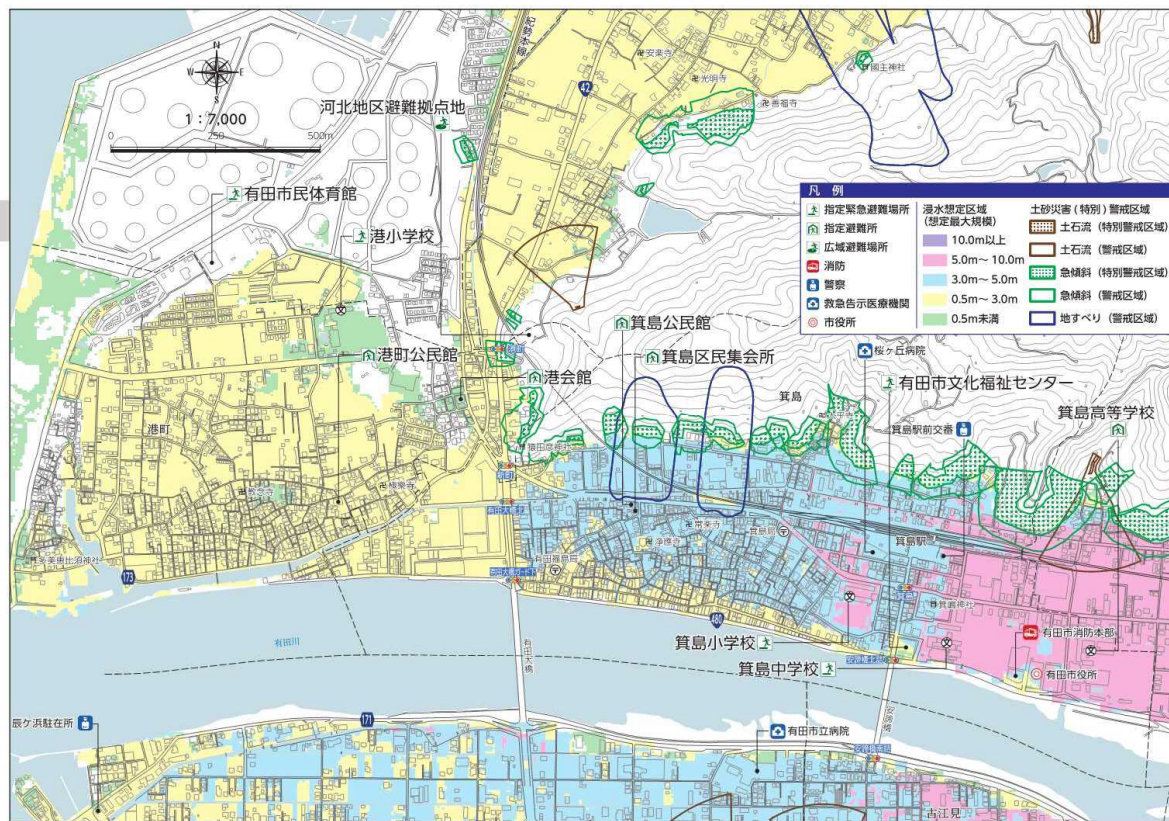
● ハザードマップの整備

取組内容

取組概要

● 有田市では、令和4年3月に土砂災害と有田川の想定最大規模降雨に対応したハザードマップを作成・配布。

● 市民の避難行動の一助となるように、マイ・タイムラインを記入できる欄を作成、防災講座時に使用している。



マイ・タイムライン

【マイ・タイムライン】をつくってみよう!

知って備える	警戒レベル	あなたの行動
1 住んでいる地域の 災害リスクを知る	レベル1 早期注意情報 (避難勧告の可能性)	テレビやインターネットで天気予報や地震予報、気象庁の発表や自治体の発表を確認し、避難場所や避難経路を確認する。
2 避難場所・経路を 調べる	レベル2 注意報	避難場所や避難経路を確認し、避難経路が通行不能になる可能性がある場合は、避難場所や避難経路を確認する。
3 避難等の内容を 調べてはるかな行動を とるか調べる	レベル3 高齢者等避難	避難場所や避難経路を確認し、避難経路が通行不能になる可能性がある場合は、避難場所や避難経路を確認する。
4 災害発生直前の 備えや行動を確認する	レベル4 避難指示	避難場所や避難経路を確認し、避難経路が通行不能になる可能性がある場合は、避難場所や避難経路を確認する。
	レベル5 緊急安全確保	避難場所や避難経路を確認し、避難経路が通行不能になる可能性がある場合は、避難場所や避難経路を確認する。

【マイ・タイムライン】をつくってみよう!

知って備える	警戒レベル	あなたの行動
1 住んでいる地域の 災害リスクを知る	レベル1 早期注意情報 (避難勧告の可能性)	
2 避難場所・経路を 調べる	レベル2 注意報	
3 避難等の内容を 調べてはるかな行動を とるか調べる	レベル3 高齢者等避難	
4 災害発生直前の 備えや行動を確認する	レベル4 避難指示	
	レベル5 緊急安全確保	

(2) 避難時間の確保 ③ 氾濫水の排水、浸水被害軽減に関する事項

■ 排水施設、排水資機材の操作・運用について

・ 排水施設等の確実かつ的確な運用体制の確保及び点検・維持管理の実施

● 浸水被害の軽減を図るため、初島排水区の雨水管渠の整備・箕島ポンプ場のポンプ増設
また、施設の持続的な機能確保を行うため、老朽化施設の改築を実施

取組内容

取組概要



- 流出抑制・内水対策について
- ・間伐等による森林整備

● 森林環境譲与税を活用した水源のかん養

取組概要

○かつらぎ町の森林・林業の現状と課題

かつらぎ町の総面積15,169haの約65%占める山林は、すべてが民有林で、うち人工林79%、天然林20%となっている。またこれらの山林は、林産物の供給のみならず、国土の保全、湧水や洪水の緩和、良質な水を育む水源のかん養機能、土砂災害の防止等、重要な役割を果たしている。

しかし、近年、森林所有者の高齢化・不在村化、また後継者不足や林業の採算性の悪化等により、林業生産活動が全般的に停滞し、間伐、保育等が適正に実施されず、人工林の荒廃が多くみられるようになっており、森林に対する適切な間伐、保育等による森林整備が重要な課題となっている。

これらの状況下で平成31年4月に森林経営管理法が施行され、「森林経営管理制度」がはじまった。また、喫緊の課題である森林整備等に早期に対応する観点から「森林経営管理制度」の導入に合わせて、森林環境譲与税の譲与がはじまった。

かつらぎ町においても、森林環境譲与税を活用して、事業者（かつらぎ町森林組合）が実施する切り捨て間伐や作業道の復旧事業に対して支援している。

○花園地域の意向調査実施計画

意向調査の実施場所については、「統計的に国民が森林に期待する機能の第1位は防災である」ことから、和歌山県の土砂災害マップを活用して、危険度が高い地域を優先的に実施していく。

令和5年度 花園久木

令和6年度 花園梁瀬（南側）

令和7年度 花園北寺（下北寺）、池ノ窪

事業年度	実施場所	実施実績	施業内容
令和3年度	花園梁瀬	22.24ha	間伐
	花園梁瀬	521m	作業道設置
	花園梁瀬	2.83ha	切り捨て間伐
	花園北寺	2.86ha	切り捨て間伐
令和2年度	花園梁瀬	13.78ha	間伐
	花園梁瀬	1,736m	作業道設置
	花園北寺	6.15ha	保育間伐
	花園梁瀬	13.03ha	間伐
	花園梁瀬	714m	作業道設置
	花園北寺	7.03ha	切り捨て間伐
	花園梁瀬	2.3ha	切り捨て間伐
	花園久木	18.99ha	切り捨て間伐
	花園中南	21.92ha	切り捨て間伐
	花園新子	19.61ha	切り捨て間伐
平成31年度	花園梁瀬	7.02ha	間伐
	花園梁瀬	5.96ha	間伐
	花園梁瀬	1,826m	作業道設置
	花園梁瀬	682m	作業道設置
	花園梁瀬	30.43ha	切り捨て間伐
	花園梁瀬、中南	34.74ha	切り捨て間伐
平成30年度	花園梁瀬	59.36ha	間伐
	花園池ノ窪、北寺	7.57ha	間伐
	花園池ノ窪	1.09ha	保育間伐
	花園梁瀬	9.26ha	保育間伐
	花園梁瀬	1,971m	作業道設置
	花園北寺、梁瀬	23.1ha	切り捨て間伐

取組内容

(4)『流域治水プロジェクト』の実施 ⑤河川管理施設等の整備に関する事項

- 流出抑制・内水対策について
- ・間伐等による森林整備

- 日本農業遺産に登録された森林環境の保全による治水・治山の推進について

取組概要

高野町、かつらぎ町、有田川町が協働し提案した「聖地高野山と有田川上流域を結ぶ持続的農林業システム」が令和3年2月に日本農業遺産に登録された

この中で総本山金剛峯寺が取り組んでいる

- ①長々伐期施業
- ②複層林化
- ③天然下種更新

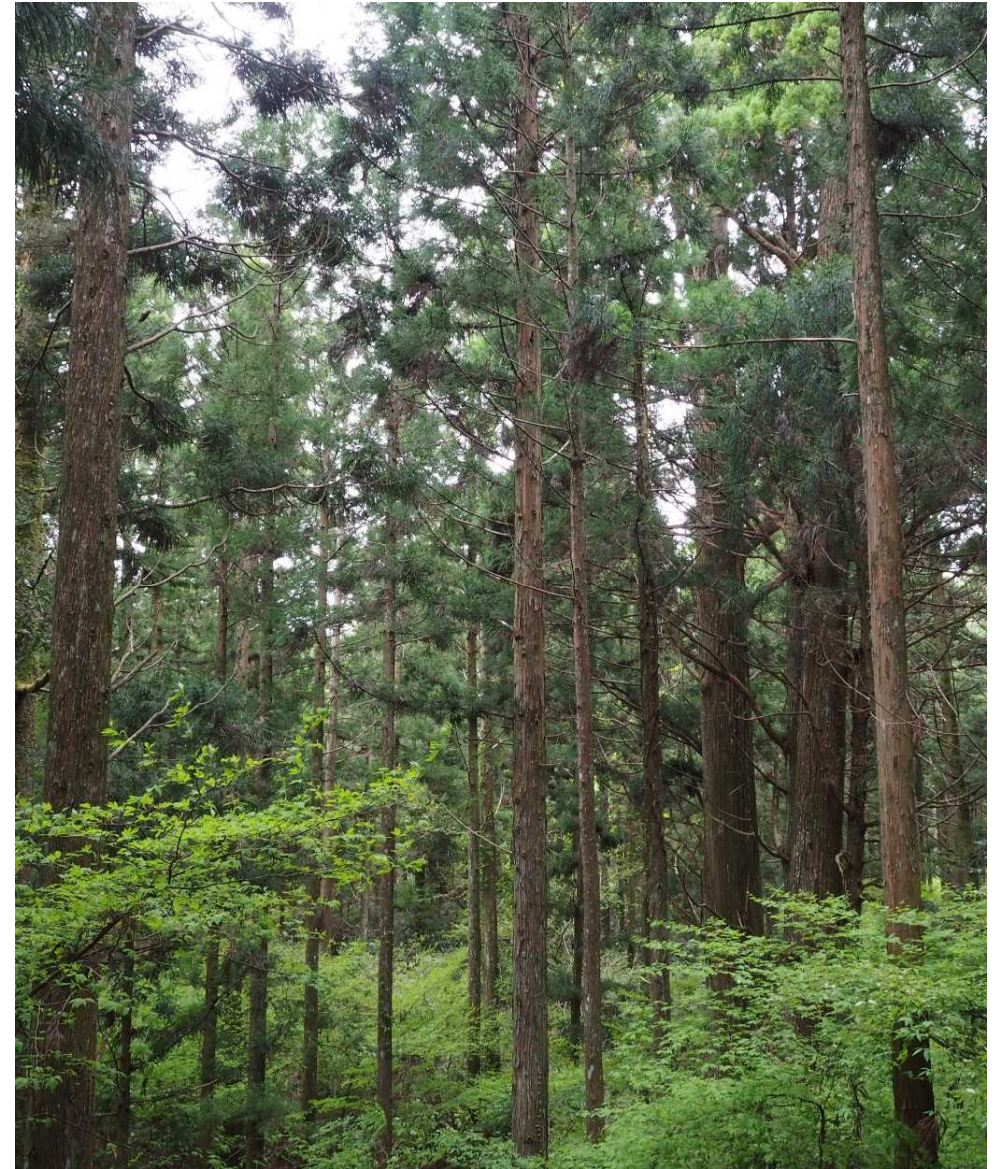
の考え方は、「水源の涵養」や「国土保全」に非常に有効なものであり、1200年の歴史を経た知恵であると考えられる

今後も引き続きこれらの施業を行って行くことで、有田川上流域の「減災」に繋げて行きたい

【課題】

河川近くの森林の木材が下流に流出しないよう、「切り捨て間伐」ではなく「搬出間伐」を推奨、今後、森林環境譲与税などを活用した事業者への補助制度の確立が必要

枝打ちや間伐が適切に施され、複層林化し、豊かな生態系とともに、保水力の高い森林が広がる高野山奥之院裏 →



取組内容

- (2) 避難時間の確保 ②水防に関する事項
- 水防体制について
 - ・消防団車庫の移転

消防団車庫の移転

取組概要

消防団車庫の移転計画



消防団の車庫が浸水想定区域内に位置しており、有事の際には迅速な対応、また、消防団員の安全を確保することが困難であるため、高台への建て替えを行う。

(1) 洪水に対する意識の啓発及び普及 ① 情報伝達、避難計画等に関する事項

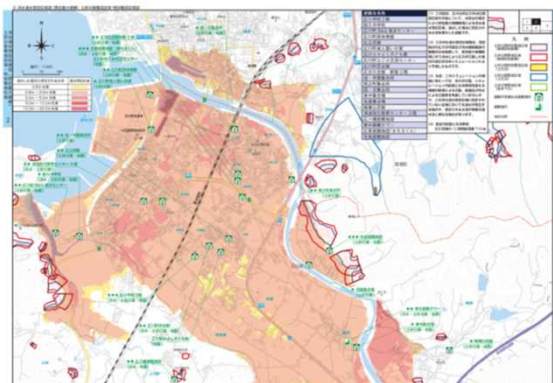
- 避難場所・避難経路について
- 防災に関する啓発活動について

取組内容

- ハザードマップの作成・配布
- 避難路の整備
- ワークショップの実施
- 小中学校と連携した防災教育の実施

ハザードマップの作成・配布

- 広川町では、令和3年3月に土砂災害と広川の想定最大規模降雨に対応したハザードマップを作成・配布。
- ワークショップや小学校等の防災教育時に使用している。



避難路の整備

- 広川の浸水想定区域から避難するための紀勢避難路を整備中。

令和4年度中完成予定

延長：131.4m

※避難誘導灯
4基設置



講師を招いてのワークショップの実施



自主防災組織の代表者を対象に、防災アドバイザーである防災システム研究所の山村武彦所長を招いて、避難対策等についてのワークショップを実施した。

小中学校と連携した防災教育の実施



町内の各学校と連携し、避難所見学や資器材設置訓練、防災知識の講習を通じて防災意識の向上を図った。

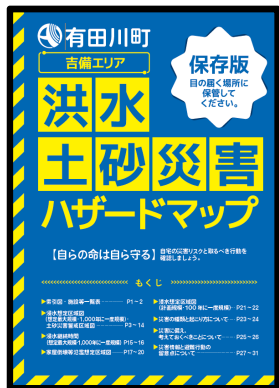
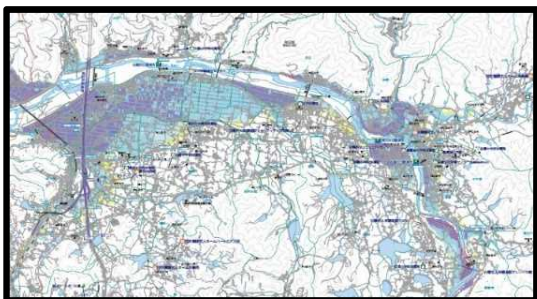
取組内容

- (1) 洪水に関する意識の啓発及び普及①情報伝達、避難計画等に関する事項
 - 避難場所・避難経路について
- (2) 避難時間の確保 ②水防に関する事項
 - 水防体制について
- (3) 迅速・的確な行動の備え①情報伝達、避難計画等に関する事項
 - 住民等への情報伝達体制や方法について

- 想定最大規模の洪水ハザードマップの作成・周知(有田川以外)
- 防災ポータルアプリの周知
- 要配慮者利用施設への通知と計画の確認
- 水防に関する広報等、人材確保の取組

想定最大規模の降雨による洪水浸水想定区域図に基づくハザードマップの作成

洪水浸水想定区域の指定対象となる河川の拡大に伴い、今後県による浸水想定区域図の公表に基づき、速やかにハザードマップの作成を行い、住民周知を図る。



有田川町
洪水・土砂災害
ハザードマップ
(令和4年3月作成)

有田川洪水ハザードマップ【想定最大規模】
(平成31年3月18日作成)

防災ポータルアプリの周知

アプリ「ありがたがわ防災・行政ナビ」
～ みんなの手元に“防災”を～

令和3年4月より有田川町公式のスマートフォンアプリを導入。防災行政無線放送内容受信、水位計、河川監視カメラ情報の提供など防災関係だけでなく広報誌など町の情報も掲載。現在約3,000の方が利用しており、さらに多くの方に利用いただけるよう、広報誌、研修会等で周知を図る。



要配慮者利用施設への通知と計画の確認

令和4年3月に地域防災計画を改訂。避難確保計画未作成となっている要配慮者利用施設に対して作成通知を行い、計画の確認を実施する。(令和4年度完了予定)

水防に関する広報等、人材確保の取組

出水期前や9月号などに水防についてや避難等に関する記事を掲載している。また、令和5年度には、「紀州大水害(7.18水害)」発生から70周年となるため積極的な広報を実施していく。

